

「生活環境学部(家政系学部)を選んだ理由!



生活環境学部、生活科学部、家政学部、栄養学部などの家政系学部は、社会で活躍しようとする女性をバックアップする学部として誕生した伝統学部だが、高度情報化社会の進展のなかで、文系と理系が融合する最先端分野となっている。

取材協力: 奈良女子大学
※ここで取り上げるのは、家政系学部のごく一部の内容です。

Q 現在の大学・学部に入学した経緯を教えてください

A 渡久平さん▶ 栄養学が学べ、管理栄養士の資格が取得できる国公立大学を、大学のパンフレットやホームページを利用して調べました。奈良女子大学はそのひとつで、高校2年の秋にオープンキャンパスに参加して確かめました。在学生の方からお話を聞いたり研究室を見学したりして、理学部のように実験や研究ができる「食を科学的に学ぶ」という学部だと知りました。

A 井上さん▶ 中学生のころからファッションに興味があり、当初は専門学校への進学も考えていました。しかし、高校のときの担任の先生から

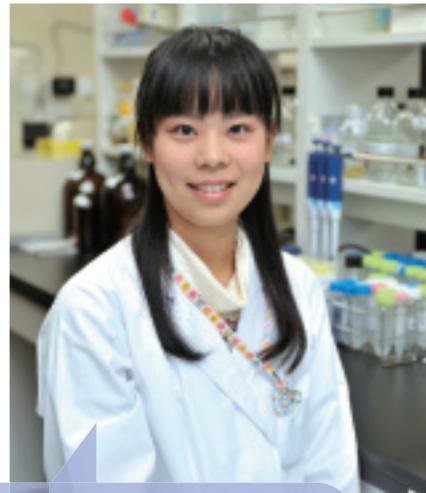
衣服について学べる国立大学があると教えていただき、大学ならば、ファッションだけでなく、他の勉強もでき視野が広がると考え、当時興味を持っていた染色の先生もいらっしゃる奈良女子大学の生活環境学部を志望することにしました。

Q 現在の学科を選んだ理由を教えてください

A 渡久平さん▶ 生活習慣病の増加や食育の取り組み推進によって、食・栄養への関心が高まっていて、食物栄養学科に入ればそれに貢献できると思ったからです。また、自分自身の生活、健康にすぐ役立つ知識を得られると考えたことも理由の一つです。

A 井上さん▶ 中学生の職業体験で、デザイン事務所と専門学校に行き、そこでたくさんの衣服、ファッション

誌などに囲まれて仕事をしている専門家にお会いしたことです。ファッションに携わる仕事をするためには、デザインのセンスだけでなく、繊維の特性や色彩などを幅広く学んでおく必要があると、そのときデザイナーさんから聞いたことが、染色などに興味を持つきっかけとなりました。



学内外の実習などで食について科学的・専門的に学ぶことができる

奈良女子大学
生活環境学部 食物栄養学科 4年
▶ 沖縄県立那覇国際高校卒
渡久平 奈々さん

所属している食安全学研究室(小倉信昭教授)では、食品中の成分が免疫反応にどのような影響を与えるかを研究しています

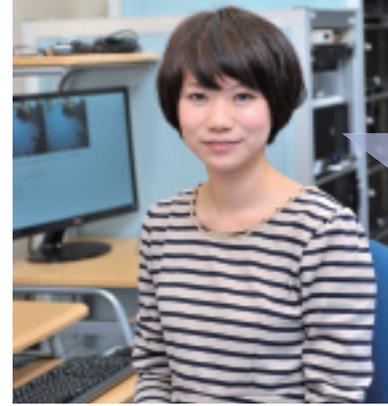


細菌などのいないクリーンベンチで培養液を取り出しています

遺伝子組換え実験に使う大腸菌を培養皿に植えています



生活環境学部のここが面白い



体にも身につける「衣」をキーワードに幅広い視点で学べることができる

奈良女子大学
生活環境学部 生活健康・衣環境学科 3年
(4月から当該学科は情報衣環境学科になります)

▶ 岐阜県・麗澤瑞浪高校卒
井上 光さん



触感の記録と再生について情報理工学の視点で研究を行っている指導教員(佐藤成成講師)と卒研の進捗状況について話しています



先輩の杉原英絵さん(大学院修士課程2年)とともに佐藤講師の指導を受けているところです

大画面ディスプレイや3D計測装置で、衣服と体の動作についての研究も行うことができます



Q これから学部・学科を選ぶ受験生にアドバイスをお願いします

A 渡久平さん▶ 栄養系学科は文系と思っていられる方が多いと思いますが、実際は、実験や研究をすることが多い学科です。これからの管理栄養士には、病院などで栄養の知識を元に病気の予防や患者さんの健康回復に貢献できるようなレベルの高さが要求されます。私が大学院進学を決めたのもそれが理由です。同じ学科でも大学によって内容に大きな違いがあります。オープンキャンパスなどでそれをぜひ確かめてほしいと思います。

A 井上さん▶ 私は入学当初、染色に興味を持っており、2年生のころまでは染色の体験をお店などで行ったりしていました。しかしその後、香水に興味を持ち卒業研究では香水の研究を行っています。大学に入って興味の対象が変化するのは普通です。こうしたことを考え、本学のような幅広く学べる環境を選択することもひとつの選択だと思っています。

Q 実際に入学して良かったと思う点はどこですか?

A 渡久平さん▶ 生体や疫学などのマクロの分野から、細胞や栄養素などミクロの視点まで、食や栄養についてさまざまな視点から幅広く学べる点です。学生実験や卒業研究などにより専門的、科学的に学べたこと、病院や給食施設などの学外実習で実践的な技術を身につけられたことも大きかったと思います。

A 井上さん▶ 研究領域が幅広く、自分のやりたいことを探せる点です。私は現在、香水の研究をしています。香水と聞くと、衣服とは関係のないように見えますが、身につけるとい

意味では同じです。「衣」をキーワードとし、広い視野で考えることができるこの学科に入ってよかったと思います。

Q 受験生のときに考えていたことと最も違っていた点は?

A 井上さん▶ 化学や物理、数学の知識が、かなり必要とされる点です。大学では、服を作ったりデザインしたりする実習が多いと思っていたのですが、実際は化学や物理の実験とそれに関する講義などが多くを占めていました。しかし、衣服を考える上ではどれも大切な授業でしたので、学ぶことができよかったと思います。